

『身につけるもの —民俗資料にみる昔の衣生活—』

を開催しました。

会期 : 平成27年10月3日(土)~11月29日(日)

当館の館藏品の中から、食・住とならんで生活の基本となる「衣」に関わる資料を展示しました。明治~昭和30年代、暮らしが洋風化に向かいつつも未だ和服が日常の中に生きていた時代の衣類や装身具、衣にまつわる伝統的な慣習などについて紹介、そこに込められた様々な知恵や工夫、当時の人々のものの見方や考え方をうかがいました。

【主な展示品】

○ときに応じた服装

普段着（仕事着）、晴着（冠婚葬祭や信仰にまつわる服装）、ほか

○はきもの・かぶりもの

頭巾、帽子、手拭い、ワラジ、ゾウリ、ゲタ、シビグツ、など

○装身具

和装の小物（くし・こうがい、たばこ入れ、矢立、など）



ご来館いただきましたみなさま、ありがとうございました。